



国臨協関信

HPアドレス <http://kanshinshibu.org>

平成30年 4 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者 峰岸正明
編集委員 吉田茂久・中尾知江美・柳 進也
印刷所 東洋印刷株式会社
☎ 03-3352-7443



平成29年度 合同交流会のお知らせ

日時：平成30年4月21日（土）

場所：新御徒町 総合宴会場・会議室 オーラム

- 大江戸線・つくばエクスプレス線 新御徒町駅「A1」出口 徒歩2分
- 日比谷線 仲御徒町駅北口 徒歩6分
- 銀座線・稲荷町駅 徒歩5分
- 山手線 御徒町駅北口 徒歩8分

同日は、国立国際医療研究センターに於いて
関信支部定期総会および研修会を開催いたします。
詳細につきましては各施設に配信されたリーフ
レットを御参照ください。





定年を迎えて

NHO新潟病院 齋 間 理

光陰矢の如しと言いますが、ついに自分の番となりました。昭和56年から旧国立長野病院に非常勤職員として2年勤務し、昭和58年から（現）NHO高崎総合医療センターに定員採用されてから35年間で6施設にお世話になりました。一番長かった施設は地元長野の（現）信州上田医療センターに主任に昇任し足掛け10年間勤務させて頂きました。この施設では環境的にも恵まれた事もあり、大いに勉強し大いに子育てに励みました。30代から40代って体力も気力も充実しており子供の学校行事ではPTA奉仕活動、業務では学会発表や認定試験に挑戦等で、とても良い経験の出来た時期だったと思います。

もう時効ですが、幾つか異動したある施設での出来事の中で一番苦慮したのが人間関係でした。今では考えられない暴力やパワハラ等のハラスメントがあったのも事実でした。ある意味こう言う悪い部分は私たち世代の犠牲で是正され現在に至っていると思います。職場での人間関係が良好であるなら業務・雑用が忙しくても大丈夫ですよ！相手の立場に自分を置き換えて考えれば良い人間関係が作れると思います。

今後の我々の業務に目を向けるとAI（人工知能）が発展し増々自動化が進んで行くと思います。単調な検査はAIシステム機器に任せ、法律も整備された「検体採取」やより患者に近い「病棟業務」への業務拡大等の先を見据えた方向に舵を切って行く事となると思います。

職場長にならせて頂いての感想は、ある先輩が仰っていた教訓「責任と覚悟」が必須でした。これまでに「嗚呼、これは!？」と言う事例もいくつか有りましたが、結果的に責任は職場長にあり、この教訓が無かったらとても良い職場作りは不可能と思いました。スタッフには自分の経験し

たスキルを如何に還元出来るかに掛かっていると思いました。が、伝承が出来たかと問われれば・・・まだまだ出来なかったと言うしかありません、人間多様ですから難しいです。またその多様性が良いのだと思います。

定年を迎え正直、副技師長・技師長へ昇任時の様な、みなぎるパワー感も収まり自然とフェードアウトして行く感が強いですが、まだまだ年金での暮らしは先送りされており今は再任用制度での再雇用で頑張るつもりです。ただ再任用制度は今回から当事者となり、私の様な地元以外で定年を迎える場合は制度に縛りや制限があり又、希望施設の経営状態からも雇用可能か否か判断され易く不利さを感じる所でした。大変心配して頂いた専門職を始め、該当施設の技師長には親身に相談と調整をして頂き感謝したいと思います。今は過渡期で致し方ないと思いますが、ニュース等では65歳へ完全移行するのは2033年頃と報道されており、かなり先が長い話です。誰もが今後どこで定年を迎えても希望施設の行ける再任用制度になる事を期待しています。

定年後の人生で豊かさの一点となる「趣味」を若いうちから持っているといいと思います。私は車でのサーキット走行が趣味ですが、単身赴任期間は休止状態でありました。今年で所有19年目となる旧車（R34GTR）もガレージでホコリをかぶっておりましたが、今後はゆっくりと復活に向けて準備を進めようと思っています。まだまだ働けるし趣味もやりたいし孫の世話もしたいし大いに頑張りたいと思います。

最後に、関信支部の発展と会員の皆様のご健勝を祈念し退職の挨拶とさせて頂きます。長い間本当にありがとうございました。

定年を迎える会員の方々（五十音順）

氏 名	施 設 名 称	役 職 名
安 藤 敏 一	NHO 霞ヶ浦医療センター	主 任 検 査 技 師
岩 崎 順 子	国立療養所多磨全生園	臨 床 検 査 技 師
浦 田 兼 司	NHO 東京病院	主 任 検 査 技 師
大 矢 良 之	NHO 相模原病院	主 任 検 査 技 師
長 田 健 児	国立国際医療研究センター 病院	主 任 検 査 技 師
霞 政 治	NHO 宇都宮病院	主 任 検 査 技 師
加 藤 康 子	NHO 埼玉病院	臨 床 検 査 技 師
桑 村 良 隆	NHO 下総精神医療センター	臨 床 検 査 技 師 長
小 林 正 弘	NHO 横浜医療センター	主 任 検 査 技 師



定年を迎えて

国立療養所栗生楽泉園 清 水 紀 臣

思い起こせば昭和55年に旧国立長野病院(上山田温泉)に採用され、検査技師としての基礎を築くために毎週末、多くの研修会に参加し、多忙な業務と温泉街で呑むことに8年間を過ごした事が懐かしく思い起こされます。幸いにもメリハリのあった生活は現在に至るまでの礎となり、今でも交流のある事務官や、大学、県立、民間病院の検査技師(人脈)である先輩や相談出来る仲間は、その頃の出会いに始まっています。その後、東長野病院、東京第二病院、新長野病院、高崎病院、宇都宮病院、信州上田医療センター、栗生楽泉園と8施設、4地域を経験しましたが、田舎者に都会の環境は色々と暮らしぶりいものがありました。環境とはいえ一番は人間関係とその施設の培ってきた体質でした。そんなところでも尊敬できる先輩や多くの良い仲間と出会えたことは、今でもありがたいことだと思っています。異動先の長野と高崎では新棟移転で施設の立ち上げに苦労しましたが、そんなときほど論文投稿や学会発表など、忙しい中でも多くのことが出来たように思います。同じ苦労を共にした同志は、いまでも顔を合わせれば互いに思いが通じるものがあります。宇都宮では東日本大震災を経験し、当時は職員全員が大変な思いをしましたが、今では懐かしく思い出される事ばかりで、過ぎてみれば良い思い出になっています。

業務における専門分野は感染症、微生物検査に多く携わらせて頂いたおかげで、一般細菌、結核、ハンセン病と国立でしか経験できない部分の感染症に触れられたことは大変貴重であり、ありがたいことだと思っています。学会や研修会では大学病院や他病院の高名なベテラン技師さんに、検査方法など解らないことを教えて頂けたおかげで、気軽に話の出来る関係を築くことも出来ました。

最後に経験出来たハンセン病は、感染症であるが人権まで侵して人類に教訓を残した数少ない疾患であることを学ばせてもらい、標高1,000m超えの重監房と施設の歴史を紐解きながら、入所の方々と過ごした自然豊かな環境は、夏涼しく冬の厳しい寒さにより、一段と鮮明な記憶になることでしょう。また、異動した施設で接することの出来た皆さんには、多くのことを教えられ、互いに影響出来たものがあつたと思います。身近にいた世代が次につなぐ役割を果たし、叱咤した世代が主任として検査の中核を担い、新しい時代を創造してくれることでしょう。若い技師の皆さんには、検査技師としての喜びを感じることの出来る症例に、早い時期に少しでも多く出会ってほしいものだと思います。その出会いこそが、臨床検査技師としての考え方を確立してくれると思います。

我々の組織する国立病院臨床検査技師協会は構成人数も多く、専門職や支部により企画される研修会が沢山開催されています。研修会は、あつて当たり前になり、そのありがたさが解らなくなっていますが、他の組織の技師さんからすると、うらやましい限りと聞かことがあります。そんな素晴らしい組織に属することが出来た事は大変にありがたいと思っています。皆さんも、これから多くの仲間と出会い、いろいろな経験をするでしょうが、母体となる国臨協関信支部と共に自分を磨き、検査技師の将来を明るく豊かなものにするべく力を尽くして下さい。その結果と共に自身に力を蓄えることが出来ると思います。最後に関信支部の主軸となり、運営している役員の皆様には敬意の念を抱くばかりです。長い間ありがとうございました。

定年を迎える会員の方々 (五十音順)

氏 名	施 設 名 称	役 職 名
齊 間 理	NHO 新潟病院	臨 床 検 査 技 師 長
清 水 紀 臣	国立療養所栗生楽泉園	臨 床 検 査 技 師 長
長 谷 川 達 朗	国立国際医療研究センター 病院	主 任 検 査 技 師
日 吾 雅 宜	NHO 横浜医療センター	臨 床 検 査 技 師 長
藤 澤 紀 良	NHO 埼玉病院	臨 床 検 査 技 師 長
前 野 し の ぶ	国立障害者リハビリテーションセンター病院	臨 床 検 査 技 師 長
若 井 智 世	国立成育医療研究センター	主 任 検 査 技 師
和 田 修 二	NHO 信州上田医療センター	主 任 検 査 技 師
渡 部 弘 美	NHO 新潟病院	臨 床 検 査 技 師

第3回国臨協関信支部主催研修会に参加して



NHO埼玉病院
中戸川 浩 平

平成29年12月2日(土)、国立国際医療研究センター研究所において第3回国臨協関信支部主催研修会が開催されました。「認知症と検査」をメインテーマに、国立国際医療研究センター病院の中村良幸主任と、日本光電工業株式会社事業本部の山田康裕先生のお二人にご講演をいただきました。

まず始めに中村主任より「『認定認知症領域検査技師』資格を取得して」と題してご講演をいただきました。「認知症」という言葉自体はよく耳にするのですが、実際にどのようなものなのか理解できていませんでした。今回、認知症とはどういうものなのか、診断基準や症状、原因によって好発年齢や性別が異なるなど、大変わかり易く教えていただき、認知症についての理解を深めることができました。また認知症の方の心理的特徴

と接し方についても大変勉強になりました。

次に山田先生より「認知症検査」と題して、認知症検査や認知症診断の概要と、認知症検査と物忘れプログラムの関係性についてご講演をいただきました。物忘れ相談プログラムは、タッチパネルパソコンを使って質問に答えることによって、短時間で認知症のスクリーニング検査を行えるもので、実際に体験させていただきました。

現在65歳以上のうち4人に1人は認知症またはその予備軍と推定され、高齢化が進む日本において、今後さらに増えることが予想されます。自分の身近な人が認知症になってしまった時や、認知症の患者さんと接する際には、今回の研修会で学んだことを活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中ご講演を頂いた中村主任、山田先生、ならびに研修会を企画・開催していただいた国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



平成29年度国臨協関信支部症例検討会に参加して



NHO下志津病院
砂 岡 瑞 生

平成30年2月24日(土)、東京医療センターにおいて平成29年度国臨協関信支部症例検討会が開催されました。昨年に引き続き第2弾のR-CPC(Removed Clinico-pathological Conference)として、今回は天理よろず相談所病院臨床検査部の松尾収二先生に検査データの読み方についてご講演いただきました。

今回は、事前に指名されたNHO東京医療センターの大久保奈央技師と香川成人技師により各症例の見解を発表し、それに基づいて会場全体で意見を出し合い、最終的に松尾先生より解説をしていただきました。時折、検査項目の意義や見解についての問いが会場へ投げかけられるという会場参加型ならではの場面もあり、ただ話を聞くだけでなく自身も考えながら研修に参加することができました。

血液ガス分析のデータが提示された症例2では、複数の検査項目を総合的に判断する重要性を感じることができました。実際に検査をしていると、単純にpHが酸・塩基に大きく傾いていないか、 PO_2 や PCO_2 といった呼吸状態はどうかという点だけに注目してしまうことがあります。しかし、代謝が十分に働いている場合では、一見pHが正常でも状態が悪くないとは限らず、単独の検査項目で考えると異常を見逃してしまう可能性もあるのだと改めて気付きました。自分自身、知識や技術が十分とは言えず異常値ばかりに囚われてしまいがちです。目立った異常値だけに注目するのではなく、データ全体を見て患者さんの状態を把握していくことが大事であると再認識できました。今後も、ひとつひとつの検査データを正しく理解し、必要な情報を臨床へ提供できるよう知識の向上に努力していきたいです。

最後になりますが、お忙しい中ご講演賜りました松尾収二先生ならびに開催・運営にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



平成29年度臨床検査技師実習技能研修 3 (輸血)に参加して



NHO東京病院
田 嶋 麻 由

平成30年1月26日から27日の2日間にわたり、国立病院機構本部において平成29年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)が開催されました。

輸血検査の基礎及び専門知識の習得と安全な輸血療法の推進・育成を目的とした研修会で、輸血業務に就いている技師から当直時のみ関わっている技師まで幅広く参加していました。私も輸血業務に携わっていますが苦慮する症例や臨床との関わりの難しさを日々感じており、今回もう一度基礎から勉強しなおそうと参加させていただきました。

研修内容は輸血製剤の製造過程や輸血検査の基礎から最近話題の分子標的治療薬について、また輸血に関わる医療事故やI&A認定基準など分かり易くお話していただきました。今回実技講習はありませんでしたが、ビデオ実習を行い判定の仕方、凝集の強さ等を再

確認することができました。

グループ討議では血液型、不規則抗体、輸血事故をテーマにみんなで討議し発表を行いました。日頃遭遇する症例や当院では出たことのない難しい症例もありましたが、考え方や追加検査など講師の方々が丁寧に教えてくださりとても勉強になりました。また、4人の認定技師の方々からは認定輸血検査技師試験の体験談等のお話をいただき、大変な環境下とプレッシャーの中、見事合格されていて自分の勉強不足と甘さを痛感しました。

今回研修に参加させていただき改めて輸血検査の難しさと輸血療法の大切さを実感しました。この研修で学んだことを忘れずに輸血の知識を高められるよう努力していきたいと思います。最後になりましたが、本研修を企画、開催していただいた関東信越グループの皆様、講師の皆様、研修に参加させていただく機会を与えてくださった職場の方々に心より感謝いたします。



NHO西新潟中央病院
保 田 剛 史

平成30年1月26日から27日の2日間にわたり、国立病院機構本部において平成29年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)が開催されました。

本研修の目的は輸血検査の基礎及び専門知識を習得させ、個々の役割・責務を正しく認識し、各施設における輸血療法に関わる医療安全の推進を図るとともに、臨床に寄与できる輸血検査技師の育成を目的とする研修でした。

1日目は輸血検査の基礎に関わる講義が中心でした。輸血検査のポイントやテクニックをわかりやすく解説していただきました。凝集を正しく判定できるコツなどは早速ルーチン業務で実践しています。2日目は

グループ討議を行いました。「こんな時どうする？ みんなで考えよう！」ということで様々な症例を討議しました。当院の輸血検査では遭遇することがあまりない症例ばかりで難しかったですが、講師の皆様のわかりやすい解説で理解することができました。また、検査報告を臨床にわかりやすく具体的に伝えることは改めて難しいと感じました。

2日間にわたる講義、グループ討議と内容の濃い非常に有意義な研修となりました。施設は様々ですが輸血業務に携わる方々と交流できたことも良い経験になりました。今後はこの研修で学んだことを今後の業務に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙中ご公演いただきました講師の先生方、本研修会を企画、運営して下さった関東信越グループの皆様心より感謝申し上げます。



平成29年度臨床検査技師実習技能研修 2 (微生物)に参加して



NHO相模原病院
幡 野 廣 樹

平成30年2月2日(金)・3日(土)、国立病院機構本部にて平成29年度臨床検査技師実習技能研修2(微生物)が開催されました。当日は雪の影響で足元が悪くなっていましたが、多くの方々が出席されていました。

研修の1日目は抗菌薬の基礎知識並びにβ-ラクタマーゼ産生菌に関する基礎および検査法、薬剤耐性(AMR)対策などについて御講義いただき、抗菌薬に関する事項に加え微生物検査技師としてICT活動への更なる関わり方を学ぶことができました。また、管内の認定微生物検査技師の方々によるワークショップが行われ、小児感染症・結核・輸入感染症に関するケースカンファレンス、血液・穿刺液などのQ&Aについてグループ討議を交え御指導いただきました。

2日目は腸管感染症検査について、同定に至るまで

の流れや考え方、合併症や感染症法における届け出について、スライド凝集反応の手技、試験管培地への正しい釣菌・接種方法など詳細に講義していただきました。その中で、腸内細菌同定のポイントとして、最も重要な性状であるIPA・H₂S・VPの結果により4群に分類し同定を進める方法は大変参考になりました。

本研修は2日間という事で、基礎知識から質量分析など普段あまり触れる事のない検査法に至るまで大変興味深い内容でした。私はルーチン業務では微生物検査に携わっていないため難しい内容の講義もありましたが、今回の研修内容を繰り返し復習し、ICT活動などの臨床へも活かせる知識にしていきたいと強く感じました。

最後になりますが、今回の研修会を企画・運営して下さいました関東信越グループ関係各位並びにご多忙の中、御指導いただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。



NHO新潟病院
加 藤 梨 紗

平成30年2月2日、3日の2日間にわたって国立病院機構本部において平成29年度臨床検査技師実習技能研修が開催されました。本研修は臨床に寄与できる微生物検査技師の育成という目的で開催されたもので、参加人数は名簿では18名となっていましたが、初めての試みである聴講者もあり、実際は多くの検査技師が参加していました。

1日目の抗菌薬の講義は専門性の高いものでしたが、とても分かり易く説明して頂き、理解することができました。特に印象的だったのは、私たちが普段風邪で処方されている経口セフェムの血中濃度は注射薬に比べ20倍低く、実はほとんど効果が無いということでした。ケースカンファレンスはグループディスカッション形式で行われました。難しい症例も多くありましたが、細菌検査のデータのみにとらわれず、患者病態の背景や血液データ、レントゲンなども合わせてみることでより正確な診断にたどり着けるということが分かりました。微生物のケースカンファレンスやQ&Aは普段経験することが少なく、日頃理解できなかったことや疑問であったことの解決の糸口となりました。βラ

クタマーゼの講義では、疑問に思っていた耐性機序や耐性菌分類を分かり易く説明して頂き、理解することができました。

2日目は腸管感染症検査から始まりました。普段当院では使わない試験管培地からの菌の推定はとても難解でした。同じような施設がいくつもあり、そのような施設でも可能な勉強法を教えて頂き、より一層細菌に興味がわきました。続いて行われた新技術関連のお話では、核酸増幅法と質量分析計による細菌の同定時間短縮と、問題点について実際に使用している施設の話も聞きながらの研修でした。遺伝子による細菌検査はどんどん簡便になりつつあり、今後広がりを見せる分野だと思いますが、基礎となるところはきちんと理解しておく必要があると思いました。敗血症の講義は担当講師の方がインフルエンザということで中止になってしまいましたが、頂いた資料はとても勉強になりました。また、その時間でワークショップのより詳しい解説をして頂けて、より知識が深まりました。

最後になりましたが、今回このような研修の場を設けてくださった関東信越グループの皆様を始め、お忙しい中講演して下さった先生方、並びに研修に参加する機会を与えてくださった職場の方々に感謝を申し上げます。

地区会だより

関信支部群馬地区会研修会に参加して



NHO沼田病院
隠 岐 博 文

平成30年2月17日(土)国立病院機構高崎総合医療センター大会議室において国臨協関信支部群馬地区会主催第1回研修会が開催されました。今回の研修会では「考えること」に主眼を置いて症例検討会が企画され、国立病院機構高崎医療センターならびに国立病院機構渋川医療センターの2施設に貴重な症例を提示して頂きました。

当日は事前に配布された資料を基に各施設で検討した内容を発表し、その後症例提示施設の方に解説して頂く形式で行われました。高崎総合医療センターの小林伸彦主任技師からは「R-CPC」と題し、間質性肺炎で転院してきた70代男性の検査データから信州大学方式のルーチン検査の読み方、考え方によって解説をして頂きました。検査値を断片的に捉えるのではなく、いくつかの検査を組み合わせ且つ時系列で検討していくことの重要性を学びました。渋川医療センターの上杉弘尚主任技師からは「他院から紹介された貧血の症例」と題し、健康診断で貧血を指摘された60代女性の症例について解説して頂きました。病名は骨髓異形成

症候群で、貧血を呈する様々な疾患から患者情報や検査データより順序立てて原因疾患を推定していく流れを教えて頂きました。解説後は質疑応答やどのような追加検査を行ったら良いかなど活発な意見交換がされ、大変有意義な研修会となりました。自施設でも検査科内でしっかり議論した上で研修会に臨みましたが、解説を聞いてみて気付かなかった点や新しく知ることがあり勉強になりました。この研修会を通して、日々のルーチン検査を漫然と行うのではなく、今回のテーマである「考えること」を意識する重要性を改めて実感することができました。

最後に症例提示していただいた小林伸彦主任技師、上杉弘尚主任技師ならびに企画・運営していただきました群馬地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



関信支部千葉地区会研修会に参加して



国立がん研究センター東病院
笹 沼 美 香

平成29年11月18日(土)国立がん研究センター東病院NEXT棟「ななはちホール」において、平成29年度国臨協関信支部第2回千葉地区会研修会が開催され、6施設から51名が参加しました。国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科医長の菅野雅人先生より「病理が分かりにくい！その分かりやすい理由」と題して御講演頂きました。

内容は、病理学は医師でも正しく答えられない程奥深い学問であり、病理医による根拠に基づいた診断の重要性を伝えていました。また、がん規約を例に挙げて、そのルールの多様性による難しさから、分かりやすくする努力の必要性を語られていました。以上を踏まえ、病理学は、患者さんにとって信頼性の高い診断モダリティであると結論づけられていました。

今回の講演の中で、印象的であったスライドの一枚に「夕暮れの海岸に、2人寄り添って座っている男女と近くにいる一人の子供が映っている写真」がありました。“あなたはどのように考えますか？”という問いに対し、私は“家族”と思いましたが、恋人同士もしくは友人など様々な意見もありました。根拠がなければ人により物の見方・捉え方が全く異なってしまう事を改めて実感しました。今回の研修会を通して、病理の奥深さや根拠に基づいた検査の重要性など大変勉強になりました。学んだことをもとに、患者さんへ質の高い医療を提供できるよう仕事に従事していきたいと思えます。

研修会終了後には、場所を移し懇親会が行われました。多くの会員が集まり、親睦を深めることができました。

最後になりますが、ご講演を頂きました菅野先生をはじめ、企画・開催して下さいました千葉地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

地区会だより

関信支部栃木地区会定期総会・研修会を終えて



NHO宇都宮病院
鷹 觜 実 優

平成29年11月18日(土) NHO栃木医療センターにおいて、第40回国臨協関信支部栃木地区定期総会・研修会が開催されました。来賓として関東信越グループより林臨床検査専門職、国臨協関信支部より工藤事務局長と椎名理事にご臨席賜りました。

定期総会では南雲会長の挨拶に始まり、平成28年度経過報告や平成29年度事業方針案や予算案の審議、新役員選出が行われ、会員の承認をもって無事に閉会しました。

続いて林臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題し、国立病院機構の概要や現状、各種認定試験の取得状況や主任選考試験についてなど多くの内容をご講演頂きました。今後どんな技師を目指していくのかを改めて考える良い機会となり、研修や認定試験を積極的に受けてスキルアップしていきたいと思いました。

また、シスメックス(株)学術サポート課の原敬志先生より「遺伝子関連検査の基礎から臨床検査への応用について」ご講演頂きました。遺伝子やその変異についての基本的な仕組みをはじめ、測定方法・原理、さらに関連する最近の診断方法やその課題などを分かりやすく説明して頂きました。

その後、椎名理事より関信支部の活動について紹介して頂きました。

総会・研修会終了後には意見交換会が行われました。多くの会員が参加し和やかな雰囲気の中、親睦を深めることができました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演を頂いた林臨床検査専門職、原先生、ご臨席頂いた工藤事務局長、椎名理事、そしてこの会を企画・開催して下さいました栃木地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成29年度 関信支部栃木地区会役員

会 長：久 間 修 平 (NHO宇都宮病院)
事務局長：有 次 耕 三 (NHO栃木医療センター)
理 事：鷹 觜 実 優 (NHO宇都宮病院)
理 事：黒 木 政 宏 (NHO栃木医療センター)
会計監査：黒 澤 智 子 (NHO宇都宮病院)
会計監査：古 谷 能 祥 (NHO栃木医療センター)



答申書を受理

平成29年12月2日(土) 国立国際医療研究センターにおいて、ルーチンアドバイザーから学術委員会移行に関する検討WGの渡辺副WG長より答申書を受け取りました。

詳細につきましては下記URLより関信支部HPを御参照ください。



平成29年度国臨協関信支部地区代表者会議

平成30年1月13日、国立がん研究センター中央病院地区代表者会議が行われました。

当日の資料及び議事録については下記URLよりHPを御参照ください。



<http://kanshinshibu.org>

RCPCを終えて

天理よろず相談所病院 松 尾 収 二 先生

多くの方々に参加頂き、感謝申し上げます。会場の雰囲気は皆さん熱心で、色紙による意志表示にも快く(?)ご協力頂きました。2事例のうち1事例は日常検査、もう1事例は緊急検査(血液ガス、電解質等)を提示しました。解読者はそれぞれ1名ではじめての経験ということでしたが、しっかりと病態を読まれていました。用語の使い方、スライドの作り方、病態生理を学んでいけばもっとすばらしい発表になると思います。

質問・意見は2例目になるとそこそこ出ましたが、もっと出して欲しかったです。勉強はアグレッシブに取り組んで下さい。患者さんだけでなく医師からの相談にも対応できるためにはどうあらねばな

らないかを考える必要があります。

近畿地区では医学検査学会、臨床検査医学会および衛生検査所協会学術集会が同時開催され、2事例のRCPCがあります。また奈良県医学検査学会ではRCPCが必ず行われ臨床検査医も加わります。その他、研修会、セミナーでもRCPCや検査の読み方のコーナーは設けられています。事例の選出、解読、資料や解説文の作成、司会などすべてをやってもらったこともあります。RCPCはどんな事例(一つの異常値)でも、どんなやり方でも出来ます。臨床検査技師の皆さんがすべてを自力でやるにはまだ時間がかかりますが、いつかはやれると期待しています。



症例検討会の内容については今後DVDにて貸し出しを予定しております。

詳細が決定したら関信支部HP上で連絡いたします。



会員のひろば

『第九』に出会って

NHO新潟病院
館 野 直 道



2016年4月に赴任した新潟病院がある柏崎市は、新潟県中越沖地震では最大震度6強を記録し甚大な被害を受けました。震災10年にあたる昨年は合同追悼式や防災訓練などの催しが行われました。その中に中越沖地震10周年の復興記念と被災後新しく建てられた文化会館の5周年記念事業として『柏崎第九演奏会』の開催と合唱団員の募集があることを知りました。10年間のブランクと9月からの週1回の練習参加は難しいかと諦めていましたが、単身赴任の地で『第九』の舞台に立ち、復興の願いを込めて合唱できるまたとない機会と思い、合唱団の募集に応募しました。

年末の風物詩、通称『第九』。ベートーベン『交響曲第9番ニ短調作品125「合唱付」』のことです。

私と『第九』との出会いは20年前のことになります。転勤のため宇都宮に家族揃って引越して間もない頃でした。街で偶然目にした『合唱団員募集！ドイツ語も楽譜も全く読めなくても大丈夫。半年間の練習によって年末には素晴らしい歌声を披露できます』という1枚のポスターに『第九』自体全く馴染みがなく、まして合唱やドイツ語は未経験の私が、何故だか心惹かれてしまいました。「本当にできるのだろうか？」という不安よりも、「新たな土地で未知の世界に足を踏み入れてみたい」という思いからでした。そのきっかけを与えてくれたのが宇都宮第九合唱団です。

アマチュアの合唱団ですが一番の特色として、演奏会は日本フィルハーモニー交響楽団をオーケストラに迎え、著名な指揮者やソリストも、すべてプロの演奏家と共演することでした。私は通称「炎のコバケン」と小林研一郎や広上淳一の指揮、テノール歌手の錦織健と共演し、他では得ることのできない醍醐味と感動を味わうことができました。「第九を歌いたい」という思いの人たちが、毎年『第九演奏会』を続けている中で、私も

宇都宮に在住した6年間歌い続けていました。

第九演奏会と聞くと「歓喜の歌」だけがクローズアップされがちです。私も初めのころは歌うことが喜びでした。演奏会を重ねるうちに、オーケストラの演奏を間近で聴けることの特典と第一楽章から第四楽章すべてに『第九』の奥深さを感じるようになりました。楽章ごとに様々な世界が出現します。第一楽章は不気味で謎めいた響き、混沌とした世界の始まりです。第二楽章になると飛び跳ねるような躍動する世界が展開します。第三楽章では楽園のような夢心地の世界となります。第四楽章になると、前の3つの楽章のメロディが断片的に順に奏でられ、そのたびごとに『このメロディではない』と否定し『もっと快い歓喜に満ちた調べを歌おうではないか』と歓喜の歌が始まります。しかし単純な愛の賛歌・平和の願いで終わらず、更に自問自答し、真の愛や平和を求めるベートーベンの思いが込められていると思います。

『第九』は戦後の世界において「自由と平和の象徴」として世界各地で演奏されてきました。日本最初の演奏会は第一次世界大戦真っ只中、徳島にあったドイツ兵の捕虜収容所でドイツ兵捕虜によって行われました。本年は記念すべき日本初演100年となります。

長い間愛されているこの『第九』に偶然出会い、これからも第九演奏会の舞台に立つことをライフワークにしていきたいと思っています。

新電機株式会社

柏崎第九演奏会

「歓喜の歌」声高らかに
第九演奏会 感動の拍手鳴り止まず

柏崎日報

2018年(平成30年)1月22日(月曜日) (日刊夕刊)

柏崎日報社
柏崎市本町1丁目1番1号
〒954-0066 電話22-3271
事務所 電話22-3441
1F:151号 1F:152号

新電機株式会社
柏崎支店
柏崎市本町1丁目1番1号
〒954-0066 電話22-3271
事務所 電話22-3441
1F:151号 1F:152号

柏崎第九演奏会

2018.1/21

柏崎市文化会館アルフォーレ 文庫ホール

全席自由 1,000円・5,000円・10,000円

チケット販売所
柏崎市文化会館アルフォーレ 文庫ホール
全席自由 1,000円・5,000円・10,000円

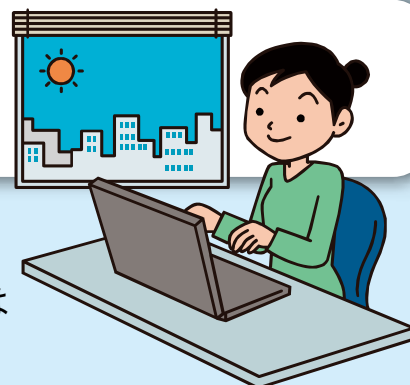
柏崎市文化会館アルフォーレ 文庫ホール
全席自由 1,000円・5,000円・10,000円

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	事 務 局	学 術	支 部 行 事
4 月	21日	土曜日	第46回国臨協関信支部定期総会	第1回国臨協関信支部研修会	第12回合同交流会
7 月	29日	土曜日		第2回国臨協関信支部研修会	ビアパーティー

* 予定は変更となる場合がありますのでご了承願います。

第46回国臨協関信支部学会の 演題募集に関するお知らせ



例年、国臨協関信支部学会の演題登録は、抄録の受付をもって演題登録としておりましたが、本年度は演題名の登録後に抄録の登録を行ないます。

それに伴い、演題登録と抄録登録の締切日を個々に設定しております。

演題の登録・抄録作成及び送付方法は関信支部HP (<http://kanshinshibu.org/>) のCONTENTS：関信支部学会をご参照下さい。

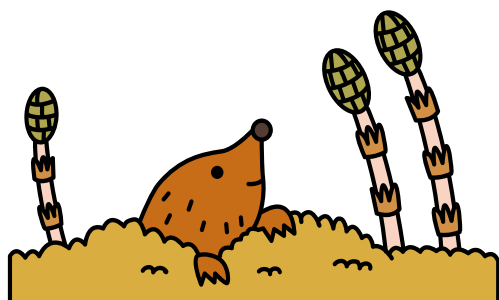
(1) 演題名登録受付期間

平成30年3月20日(火)から4月20日(金)まで

(2) 抄録原稿締切り日

平成30年5月25日(金)必着

注意：4月20日(金)までであれば従来とおり抄録の受付をもって演題登録することも出来ます。



編集 後記

新年度を迎え、ようやく過ごしやす季節がやって参りました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？ 過ごしやすいいっても、季節の変わり目は気温の寒暖差が大きく、また新生活を始められる方にとっては環境の変化などで体調を崩しやすいので油断できません。ストレスを避け、リラックスタイムを増やし、規則正しい生活をとりましょう！ わかってはいるのですが中々できないものです。会員の皆様はくれぐれもご自愛ください。

広報部 竹内智也

覚えよう 身につけよう 検査技術!

肝炎ウイルスマーカーの推移と測定意義 No.2

NHO相模原病院 田 中 暁 人

<はじめに>

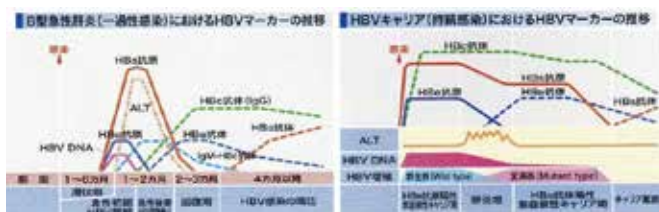
前回は、A型およびC型肝炎の肝炎ウイルスマーカーの推移と測定意義について概説したが、今回はB型およびE型肝炎について概説する。

《B型肝炎》

HBVはB型肝炎の原因ウイルスで、主としてHBVを含む血液や体液を介して感染する。

HBVの感染様式は一過性感染と持続感染に分けられ、一過性感染は成人期の初感染により急性肝炎として発症し、大多数例でキャリア化することなく治癒する。また、持続感染は母子感染や乳幼児期の感染からキャリア化し、約90%は一過性の肝炎発症後に病態は安定するが、約10%は慢性肝炎に移行し肝硬変、肝癌に進展する。

我が国でのHBV持続感染者（HBVキャリア）は約110～140万人と推定され、その多くが無症候性キャリアとされている。近年では臨床的に治癒と考えられていた、HBs抗原陰性でHBe抗体またはHBs抗体が陽性であるHBV既往感染者において、免疫抑制剤・化学療法に伴いHBVが再活性化するde novo B型肝炎が注目されている。



<HBV検査の測定意義>

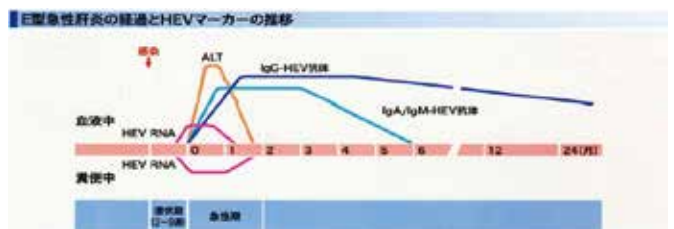
検査項目	臨床的意義
HBs抗原	HBVの表面抗原で、HBs抗原が陽性であることは現在のHBV感染状態を示すことから、B型肝炎の診断および経過観察に有用である。ただし、急性肝炎の早期やHBVキャリアにおいて時に陰性となることがある。
HBs抗体	HBs抗原に対する抗体で、その一部がHBVに対する防御（中和）抗体である。HBs抗体が陽性であることは通常肝炎の終息した既往感染状態を示し、HBVの再感染はみられないと考えられていることから、B型肝炎の治癒判定およびワクチン接種対象者の選別に有用である。また、まれにHBs抗原とHBs抗体が共存することがある。
HBe抗体	HBVのcore粒子に対する抗体で、HBVによる肝炎の後に検出される。HBVキャリアで肝炎を経験している例では高力価陽性（通常HBs抗原陽性）となり、たとえHBs抗原が陰性であってもHBVキャリアである可能性がある。また、HBV感染の終息したほとんどの例が低力価陽性（通常HBs抗体陽性）となることから、B型慢性肝炎の診断に有用である。ただし、HBVキャリアでも肝炎を未だ経験していないと推定される例では、低力価陽性または陰性となることがある。
IgM-HBc抗体	HBVによる肝炎の初期に一過性に出現することから、B型急性肝炎の診断に有用。HBs抗原が陰性であっても、IgM-HBc抗体が陽性であればB型急性肝炎と診断できるが、HBVキャリアでも急性増悪時に陽性となることがある。
HBe抗原	HBV野生株の増殖時に産生され、HBe抗原が陽性であることは一般に血中の増殖力の強いHBVが多量に存在し、感染性が強いことを示すことから、B型肝炎の病態把握を目的とした経過観察に有用である。HBe抗原が陽性の無症候性HBVキャリアでは肝炎を発症する可能性があり、慢性肝炎患者で有する患者では肝炎が活動性のものが多いとされている。また、陰性化により約90%で肝炎が沈静化する。

検査項目	臨床的意義
HBe抗体	HBe抗原に対する抗体でHBVによる肝炎時に産生されるが、HBe抗原の減少・陰性化により検出される。HBe抗体が陽性であることは一般にウイルス量は少量であることが多く、ウイルス増殖は活発でないと考えられていることから、B型肝炎の病態把握を目的とした経過観察に有用である。ただし、HBVキャリアでHBe抗体が陽性であっても、ウイルス量が比較的多く肝炎の活動性が高い場合は、HBe抗原を産生しないHBV変異株の存在が考えられる。
B型肝炎ウイルスコア関連抗原 (HBcrAg)	B型肝炎ウイルスコア関連抗原は、HBe抗原やHBe抗体と並びp22crと呼ばれるHBVプレコア蛋白の3種類を測定する。肝組織中のHBVcccDNA量を間接的に反映するとされており、B型肝炎の診断補助や、核酸アナログ治療における再燃リスクの予想、治療中止時期の指標に有用である。

《E型肝炎》

HEVはE型肝炎の原因ウイルスで、主として糞口感染の様式をとり、HEVに汚染された水などを介して感染する。これまで、E型肝炎は衛生環境が整備されていない熱帯、亜熱帯地域の発展途上国にみられる感染症と考えられており、我が国を含む先進国では輸入感染症として認識されていた。しかし、HEV常在国へ渡航歴のない急性E型肝炎が報告されたことにより、日本を含む先進国においても、常在地域に分布するHEVとは遺伝子型が異なる国内土着HEV株が存在することが明らかにされ、先進国においてはブタやイノシシ、シカなどの動物を感染宿主とする人畜共通感染症であると考えられている。

日本における最近の全国調査では、約500万人がHEV感染既往を有し、年間約12万人が新期に感染していると推測されている。また、非ABC型急性肝炎に占める割合が10%を超えており、年間約1,200人がE型肝炎を発症していると推定されている。



《HEV検査の測定意義》

IgA-HEV抗体 (定性)	IgA-HEV抗体は、感染初期に産生され、約1～5ヶ月検出されるIgAクラスの抗体をEIA法で測定する。現在唯一の保険適用検査としてE型肝炎の診断、急性肝炎の鑑別に有用である。
----------------	--

<おわりに>

近年、高感度型HBs抗原定量が可能となり、HBV再活性の予防や早期診断、核酸アナログ治療の経過観察時における再燃の早期発見など、新たな適応が期待されている。その一方で、高感度であるためコンタミネーション等による偽陽性のリスクもあり、検体の取り扱いと測定結果の解釈には十分な注意が必要である。

《参考文献》

1. 日本肝臓学会 肝炎治療ガイドライン（第3版）2017年8月
2. 日本肝臓学会 肝がん白書 平成27年度：2015年7月
3. 八橋 弘：B型急性肝炎の動向と診断・治療。日本臨牀 69 (増4): 440-445, 2011
4. 岡本宏明：厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業「経口感染する肝炎ウイルス（A型、E型）の感染防止、遺伝的多様性、および治療に関する研究」平成21年度～平成23年度総合研究報告書、平成24年3月（研究代表者 岡本宏明）
5. 国立感染症研究所 最近のE型肝炎の増加について（2016年4月27日現在）（IASR Vol. 37 p. 134-136: 2016年7月号）